

局面です。府職員の皆さんと共に、府民の命と健康を守るために全力を尽くす決意であり、その上で何点か要望もさせていただきます。

① 医療現場、医療従事者への支援強化を。

コロナ患者を受け入れている医療機関の労働者から「医療用マスクや防護服などが足りず、危険と隣り合わせでの仕事はもう限界」「そもそも人手が足りない。家族とも会えず、心が折れそう」と悲痛な訴えが寄せられています。またコロナに対応している・いないに関わらず、医療機関は患者の受診抑制の影響もあり経営は深刻です。本委員会でも議論を重ねてきましたが、コロナ患者の対策とともに、地域医療も含め医療崩壊を食い止めるため、減収分を補償する予算措置、抜本的拡大を国・本府に求めるものです。また、医療資材コントロールセンターの機能拡充、現場医療・介護従事者への支援、専用相談窓口、メンタルヘルス対策など強めていただきたいと思います。

② PCR検査、保健所などの体制拡充を。

国がPCR検査予算を渋る下、京都独自のPCR検査センター開設や医療機関への検査機器設置支援が進められてきましたが、さらに院内感染や集団感染を防ぐためにも、従事者や患者、介護サービス利用者の検査を徹底する必要性が専門家からも指摘されています。

今回、検査や公衆衛生に重要な役割を果たす保健所や保健環境研究所の体制が、この間弱められてきたことが大きな問題となりました。必要な予算や人員体制を要望します。

② 齢者介護、障害者、児童養護、保育などの福祉施設への支援を。

現場からは、「感染者を絶対に出してはならない」と緊張しながら対応しておられること、マスクや消毒液などの資材不足、人員不足の解消を求める要望が繰り返し寄せられています。障害者通所施設などの減収の対策は待ったなしであり、踏み込んだ対策が必要です。報酬請求を市町村が認める対応を徹底していただきたいと思います。

④ 子どもの安全な居場所への支援を。

学校休校の下、子どもたちが集団の中で学び育つ環境が長期に失われてきました。子どもたちの居場所となっている学童保育や保育所、放課後デイなどへの支援強化が求められます。「こども食堂」や学習支援事業への支援とともに、すべての子どもたちへの支援という視点からも、学校・教育委員会や児童相談所などと連携した取組強化を求めます。

⑤ 加えて、京都こども文化会館（エンゼルハウス）の「閉館」方針は撤回すべきです。

5月14日、京都府と京都市が「府市協調のシンボル」として運営してきた、こども文化会館について、「11月末までに閉館」との発表が突然行われ、関係者から驚きと抗議の声が上がっています。本委員会で理事者から「老朽化などによる危険性が大きい。大規模改修や建て替えには多額の費用、年月がかかる」との説明がありましたが、そもそもこうした事態を招いた責任は、必要な財政措置を行わずにきた京都府・京都市にあります。

2018年に、あり方懇談会が、「多額の税金を投入することは府民の理解を得られない」等の報告を出しましたが、これに対して「京都こども文化会館を大切に守りよくする会」から4,700筆を超える請願署名が寄せられるなど、利用者をはじめ多くの府民が、「こども」を冠した府内唯一の文化会館を守り存続することを願っておられます。ましてや、

今、コロナ禍の下、「文化芸術の灯を消すな」との運動と世論が大きく広がっている時に、京都において公的な文化会館を一方的に閉館するなど、世論にも全く逆行するものです。コロナの影響で多くの文化・芸術活動が中止を余儀なくされ、文化・芸術に触れたり発表したりすることへの願いが子どもも大人も一層強まっている今、こども文化会館の役割への期待は一層大きいものがあります。現在の場所での存続、機能充実を図ることこそ本府の責任であり、「子育て環境日本一」を掲げるなら、「閉館」方針を撤回し、その役割を果たされるよう、改めて強く求めるものです。

以上、1年間、どうもありがとうございました。

馬場 紘平 委員

正副委員長並びに委員の皆さん、理事者の皆さんには、1年間大変お世話になりました。

本委員会は、府民環境部と健康福祉部という幅広い分野を所管する委員会で、府民の暮らしに直結する分野も多く、様々なことを議論してまいりました。特に今年度は、医師確保計画や子どもの貧困対策推進計画など重要な計画の見直しや、府営水道ビジョンの見直しを受けて水道料金などが改定されるなど、重要な動きの多い年でもあり、私も多くのことを学ばせていただいたと思っています。そうした中で、特に印象に残っているいくつかの点について、所管を述べておきます。

まずは、水道問題についてです。水道は府民生活にとって欠かすことのできない重要なインフラの一つです。府民としては、安心して低廉な水をしっかりと供給してくれることを望んでいます。それはまさに、水道法の原点です。しかし、国が強行した改正水道法では、その責任を投げ捨てるかのような民営化の道筋が示されています。そして、本府の府営水道ビジョンもまさにそうした道を歩もうとしていると感じています。「安定的な経営」「選択肢の一つ」としながらも、市町村との会議の中では、広域化や民営化のタイムスケジュールが示されています。改めて、本府の役割は水道の運営主体である各市町村の困難に寄り添い、国に財政的な支援を求めると同時に、府としても市町村の取組を全力で支えることであると指摘しておきます。

また、環境の面では、舞鶴でのパーム油発電の問題は極めて重大です。福知山の住民の皆さんの怒りを府はどのように考えているのかと感じます。国が指定しているから環境にやさしいエネルギーだとし、さらには企業に前知事が信書を送り、土地の提供までして前のめりに進めていることは、世界の流れから見ても、府民の目から見ても極めて異常だと言わなければなりません。そうした中で、今月に入って事業主体となる予定だった企業の撤退が報道されました。環境団体からの反対の声、地域住民の反対の声と運動、そうした中で3社目の撤退です。こうした事業をいつまで進めるつもりなのかと言わなければなりません。原発ゼロと、そのために再生可能エネルギーの抜本的な普及を進めるそうした方向へとしっかりと舵を切っていただくことを強く求めておきます。

最後に、この間の新型コロナウイルス感染症の対策に当たっては、府民の命と暮らしを守る先頭に立って、昼夜を分かたず御努力いただいている府職員の皆様に改めて感謝を申し上げます。同時に、新たな感染症との戦いは、まさに京都府の総力を挙げて取り

組む必要があります。健康には十分留意しながら、その先頭に立っていただくことをお願いします。

田中 健志 委員

本委員会は、府民環境部と健康福祉部を所管することから、安心・安全、人権、環境対策から保健、医療、子育て支援など、府民生活に密接に関わる幅広い分野を取り扱うため、量的にも質的にもボリュームのある委員会でありました。その中でも、参考人招致として、健康寿命、気候変動、ネット依存対策の専門家にそれぞれお越しいただくなど、バランスを考慮したテーマを選定していただけたと思います。また、管内外調査についても同様で、幅広い分野の中でバランス良く取り組めました。一年間の活動を通じ、バランス良く有意義な活動であったことは、正副委員長をはじめ、委員、事務局、理事者、関係者の御努力の賜物と感謝を申し上げたいと存じます。

また、今年度は、本委員会の所管として「京都府子ども・子育て応援プラン（仮称）」、「京都府子どもの貧困対策推進計画」、「第4期障害者基本計画」、「京都府医師確保計画」と本府の大きな計画等の改定時期が相次ぎました。委員会の審議も、幅広い取扱分野の中でボリュームを一層増したものと感じております。

そしてその中であって、何と云っても新型コロナウイルス感染症拡大の影響を直接的に受けたのが本委員会でありました。本年1月に本府で初の感染者が確認されてからの一連の対応は、府民の命と健康を守るため健康福祉部を中心に、連日連夜、息つく暇のない懸命の積み重ねだったと推察いたします。まずは、この間の理事者各位の御尽力に感謝を申し上げます。本委員会としても、様々な観点での配慮をしながら、感染拡大防止に向けた取組につなげなければならないと緊張感のある委員会運営となりました。緊急事態宣言が解除されるなど、一定収束に向けた方向となってきていますが、感染拡大の第2波、第3波の発生予防等にさらに徹底的に取り組んでいかなければなりません。今年度の本委員会は終了を迎えますが、本感染症に関する対応は今後も続いていくと存じます。来年度以降の本委員会の役割や責任はより一層大きなものになると思われまます。さらなる有意義で活発な委員会運営を期待いたします。

最後に、全く想定されていなかった新型コロナウイルス感染症への対応を含め、一年間の本委員会の活動は意義深く重層感のあるものとなりました。改めて、全ての関係者の皆さんに感謝申し上げます。委員会のまとめといたします。

堤 淳太 委員

京都府下では緊急事態宣言は解除されたとはいうものの、未だに新型コロナウイルス感染症の流行は終息しておりません。本、府民環境・厚生常任委員会は、正しく新型コロナウイルス感染症をはじめとする悪疫への防疫を担う所管委員会であり、安定した府民生活の充実のためには、いかに疫病対策が重要であるかを改めて実感する1年でした。その観点から、新型コロナウイルス感染症と最前線で戦っている医療従事者の皆様、また実務を担われている保健所職員をはじめとした行政職員の皆様方に心からの敬意と

感謝の意を表します。

改めて、新型コロナウイルス感染症の流行という事象を通して府政を眺めると、今まで見えてこなかった課題の多さに驚かされます。まず、21世紀に至り医療技術も飛躍的な進歩を遂げて、iPS細胞技術のようなクローン技術も登場するような時代になっても、疫病の流行によって社会活動が寸断されるような事態に陥ってしまうのだという事は、大きな教訓として受け止め得なければならないと考えております。これは、東日本大震災の折に、10mを超えるような大津波が発生することはないという思い込みにも似ているように思われます。「安心だ」「安全だ」という思い込みが対応を鈍らせ、被害を拡大させてしまう。ありうる事象を把握し、思い込みからの可能性除外ではなく、データに基づいて冷静に判断を下す重要性を学ぶ事ができました。

一方で、我が国の医療技術の高さ、本府の衛生水準の高さ、本府職員の皆様方のレベルの高さを実感できる機会であったとも感じております。また、緊急事態宣言に基づく自粛要請下の不便の多い生活においても、粛々と協力を頂けた府民の皆様の方の力を感ずることが出来ました。不便があっても少しづつ少しづつ譲り合って、より良い状況を作っていく。これが本物の府民力なのだと実感しました。かと言って、いつまでも府民の皆様への御厚意に甘えていくわけにもいきませんので、これまで頂いた御協力に感謝の気持ちでしっかりと応えられるように尽力したいと考えております。政治とは、身の安全を保障すること・生活の見通しを立てられること、この2点が柱だと考えております。今、新型コロナウイルス感染症の第1波が収まりつつあり、当面の府民の身の安全を確保できたと考えられます。これからは第1波の影響で破壊された府民生活、特に経済的な切り口からの生活の見通しをしっかりと整えることが重要だと考えております。

新型コロナウイルス感染症の流行は、新しい可能性も切り拓いたのではないかと考えております。一番象徴的なのは、リモートワークによる働き方の転換です。ネット会議を始めとして、これまで提唱すれど実現への道は険しかったテレワークが、必要性を認め本気で取り組めば実現できるということが実証されました。これは更に先を見越せば、東京一極集中からの転換につながるものと期待しています。また、医療の在り方にも変化をもたらしています。これまでは病院に来院して治療することが主でしたが、病院自体が集団感染源となりうる可能性があることから、自宅での治療・療養が見直されています。これは、現在直面している超高齢化社会を迎えての地域医療の在り方の見直しや変化に繋がるのではないかと考えております。さらには、行政の情報発信と府民生活の在り方にも一石を投じたのではないのでしょうか。新型コロナウイルス感染症の流行下で、府民は行政の情報発信をこれまでにないレベルで関心を示し・情報を求めています。これは府民の行政に対する信頼感の高さから来るものとも言えます。今は、危機管理的な側面からの情報発信となっていますが、これを平時にもつないで、府民と京都府との信頼関係をますます深めていかれるように期待しています。

二度の管外視察では、大野町議会・愛知県議会・豊田市役所・岐阜県庁、岡山県農福連携サポートセンター・香川県議会・徳島県庁・消費者庁消費者行政新未来創造オフィス・高知県議会にお邪魔しました。

岐阜県庁では、県立岐阜希望が丘特別支援学校の視察も行いました。希望が丘特別支援学校では、障がい者のための施設の一体的整備による障がい者福祉の推進を学ぶ事が

できました。私の地元、乙訓地域の特別支援学校である向日が丘支援学校は、築 50 年を経過して建て替えの計画が進められており、また、立地自治体の長岡京市と連携して周辺エリアの福祉化も同時に進められております。希望が丘特別支援学校の先進的な取組を活かしていきたいと考えております。

高知県議会の日本一の長寿県構想では、直面する高齢化社会への対策の糸口を学びました。健康づくりと利便性の向上の両立できる京都府づくりに活かしていきたいと思えます。

参考人招致においては、京都大学の中山教授、国立環境研究所の高橋室長、京都文教大学の松田准教授から、大変内容の濃い学びを頂きました。

特に中山教授の「ライフコースから考える健康寿命～疾病予防から介護・終末期まで～」では、私のライフワークとしている終末期医療やグリーフケアの観点からも重要な示唆を頂きました。良質な医療とは何かという、今の新型コロナウイルス感染症の流行にも通じる内容であったかとも思います。

高橋参考人から頂いた気候変動に対する適応策の提案に関しては、昨今薄れつつある環境への意識喚起に改めてつながりました。京都議定書の締結地として、次世代に良好な状態でこの世界を引き継ぐことができるよう尽力したいと思います。

松田参考人から頂いた青少年のネット依存と回復への提案は、青少年の健全育成に向けて目を逸らすことができない課題でした。しかし、ネット依存に陥ってしまうのは、どこまでいっても親の目が届かないことが大きな理由を占めており、我が子に目をかけ・気をかけることが重要であると改めて認識しました。

管内視察では、乙訓浄水場も視察させて頂きました。直前には乙訓地域の上水で異臭騒ぎがあり、府民の命の源である水を守る重要性を痛感しました。今後とも府民が安心して飲むことができる清浄な飲料水の提供をお願い致します。

最後になりましたが岸本委員長をはじめ、片山第一副委員長、林第二副委員長、委員の皆様、理事者の皆様には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

本年度の経験を活かして、より一層の府政推進に向けて尽力することをお誓い申し上げて、委員会まとめといたします。ありがとうございました。

附

參考資料

機務部

府民環境・厚生常任委員会 管内外調査等実施状況
 (府民生活・厚生常任委員会 → 府民環境・厚生常任委員会)

1 管内調査

年度	年月日	調査先及び調査事項
28	28. 7. 21	○平成28年夏の交通事故防止府民運動スタート式 (行催事等委員会調査)
	28. 7. 22	○いきいきオアシス日吉 ・地域福祉を支える複合施設の概要について ・施設視察 ○南丹広域振興局亀岡総合庁舎 ・まちの公共員による地域問題解決のための取組について ○きょうと婚活応援センター ・きょうと婚活応援センターの取組について ・施設視察
	28. 7. 23	○ナショナルトレーニングセンター開所式 (行催事等委員会調査)
	28. 8. 22	○きょうと子育てピアサポートセンター開所式 (行催事等委員会調査)
	28. 8. 26	○京都ウィメンズベース開所式 (行催事等委員会調査)
	28. 9. 2	○第65回京都府社会福祉大会 (行催事等委員会調査)
	28. 11. 22	○京都府少子化対策府民会議設立総会・設立記念講演及び第10 回京都府子育て支援表彰式 (行催事等委員会調査)
	28. 12. 21	○年末の交通事故防止府民運動イベント「広げよう交通安全の輪」 (行催事等委員会調査)
	29. 2. 6	○出前議会 [於：京都府山城広域振興局木津総合庁舎] ・子育てを応援する地域づくりについて
	29. 3. 11	○第28回全国車いす駅伝競走大会 開会式 (行催事等委員会調査)
	29. 3. 12	○第28回全国車いす駅伝競走大会 出発式、スタート、閉会式 (行催事等委員会調査)
	29. 4. 6	○平成29年春の全国交通安全運動スタート式 (行催事等委員会調査)